

2014年3月期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社 代表取締役社長

2014年4月25日



東証第1部:6754
<http://www.anritsu.com>



Anritsu envision:ensure

目次

I. 2014年3月期 業績概要

I -1. 事業概要

I -2. 連結決算概要

II. 2015年3月期 通期業績予想

II -1. 2015年3月期 通期業績予想

II -2. 事業環境と取り組み

II -3. 配当予想について

III. その他

I -1. 事業概要

計測事業

開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場：LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：電子部品、無線設備

産業機械事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率)

2014年3月期 実績(連結)：1,019億円

計測 75%			産業機械 16%	その他 9%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 17%	アジア、パシフィック 30%	米州 35%	EMEA 18%
-----------	-------------------	-----------	-------------

I -2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

計測：米州・アジアを軸に海外が牽引、日本市場の投資縮小

産業機械：堅調な日本市場に加え、北米での事業が拡大

セグメント	2014年3月期(4月-3月)の状況
計測	<ul style="list-style-type: none"> ・モバイル：LTE開発用需要が堅調 ・ネットワーク・インフラ：基地局ネットワークの整備継続 ・エレクトロニクス：顧客の投資抑制傾向が継続
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本：モバイル関連プレイヤーの投資縮小 ・アジア：開発用・製造用のモバイル関連が堅調 ・米州：スマホ開発・基地局整備の投資が牽引
産業機械	国内・海外ともに堅調

I -2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位:億円)

国際会計基準(IFRS)	前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
受注高	960	1,039	79	8%
売上高	947	1,019	72	8%
営業利益	157 *	141	△ 16	△10%
税引前利益	161 *	142	△ 19	△12%
当期利益	139	93	△ 46	△33%
当期包括利益	164	135	△ 29	△17%
フリーキャッシュフロー	67	85	18	26%

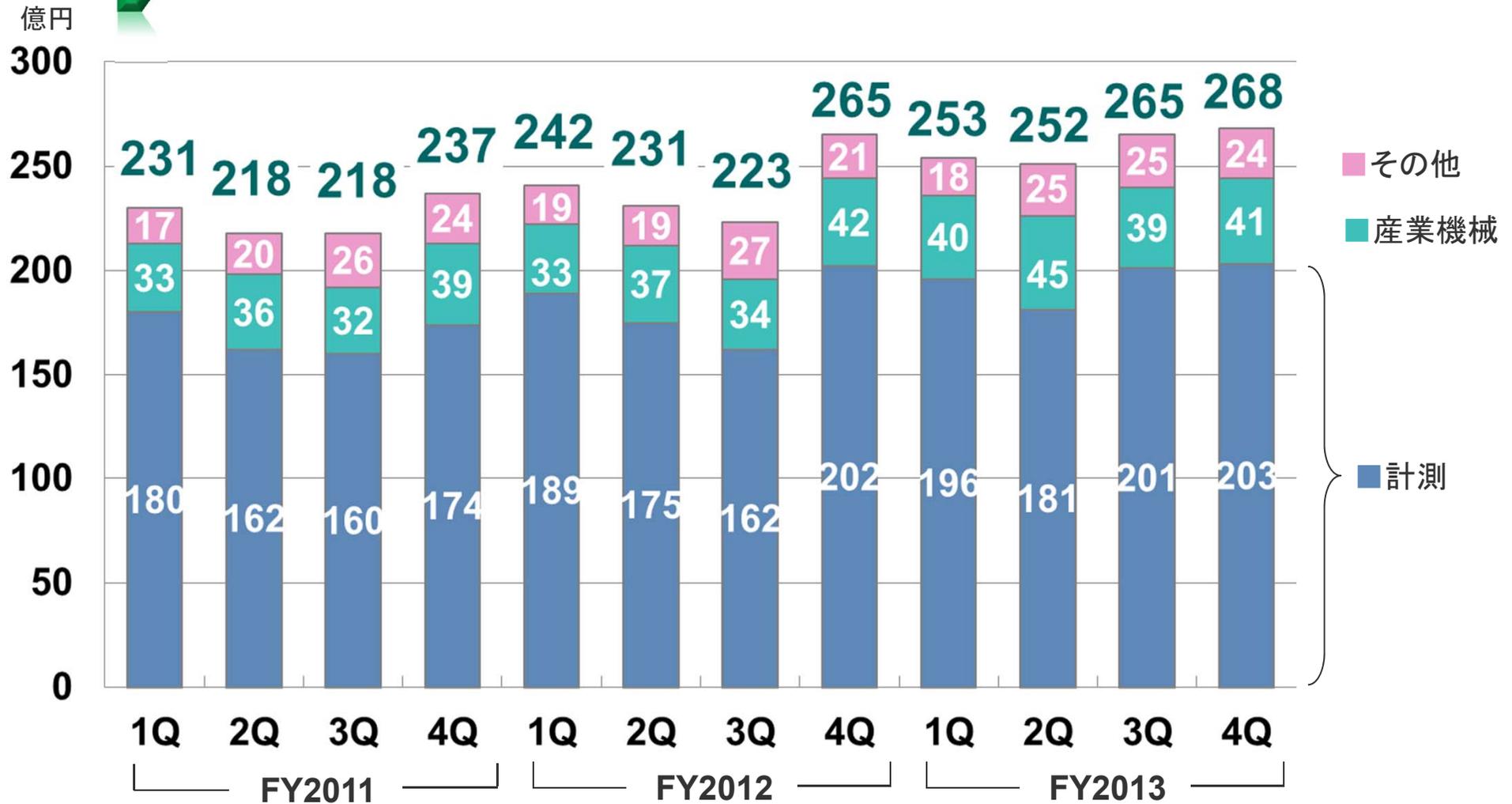
(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

* 前連結累計期間実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。
(修正前数値:営業利益158億円 税引前利益162億円)

I -2. 連結決算概要 - 受注高推移 -



第4四半期：計測事業・産業機械事業ともに第3四半期の水準を継続



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位: 億円)

国際会計基準(IFRS)		前期実績	当期実績	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
計測	売上高	712	760	48	7%
	営業利益	150	130	△ 20	△ 13%
産業機械	売上高	144	169	25	17%
	営業利益	8	12	4	48%
その他 (含: 内部消去)	売上高	90	90	0	△ 0%
	営業利益	△ 1 _{*1}	△ 1	0	-
合計	売上高	947	1,019	72	8%
	営業利益	157 _{*2}	141	△ 16	△ 10%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

* 1 その他事業の前期営業利益実績には、一部建物構築物の遊休化に関する減損損失(588百万円)が含まれます。

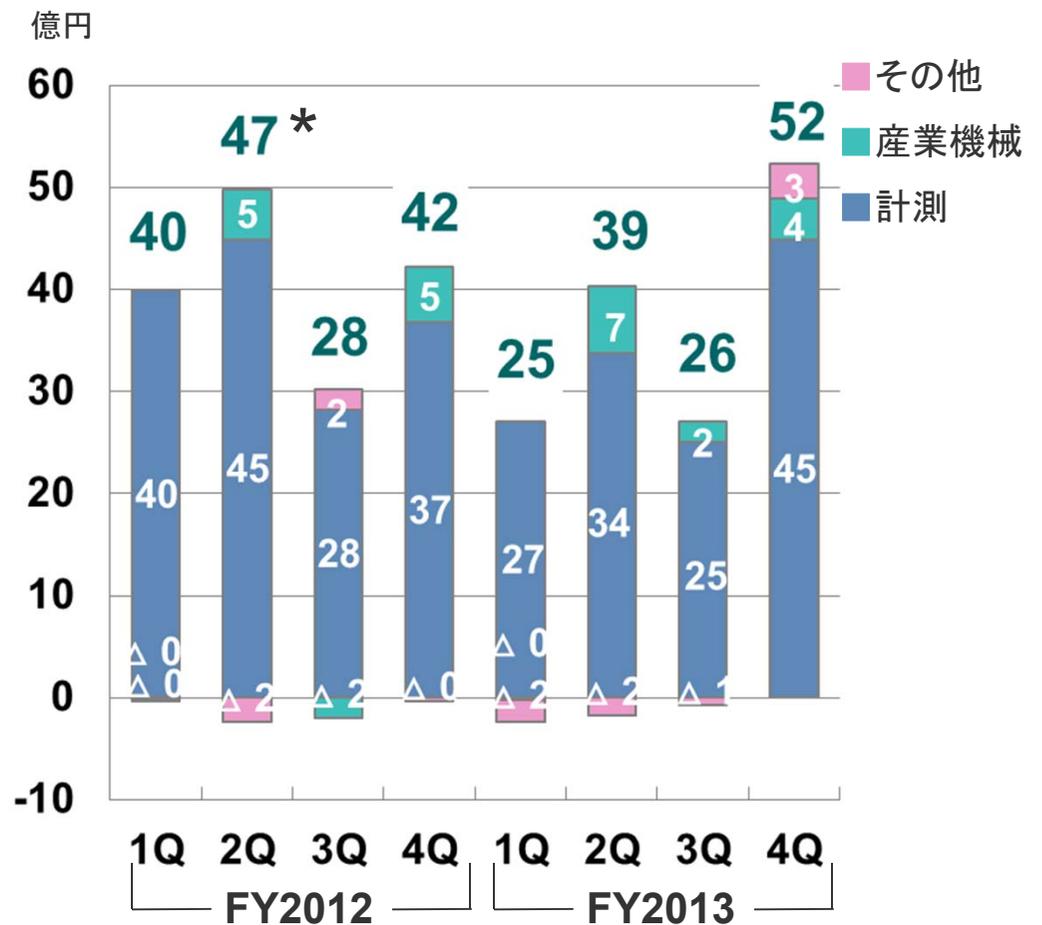
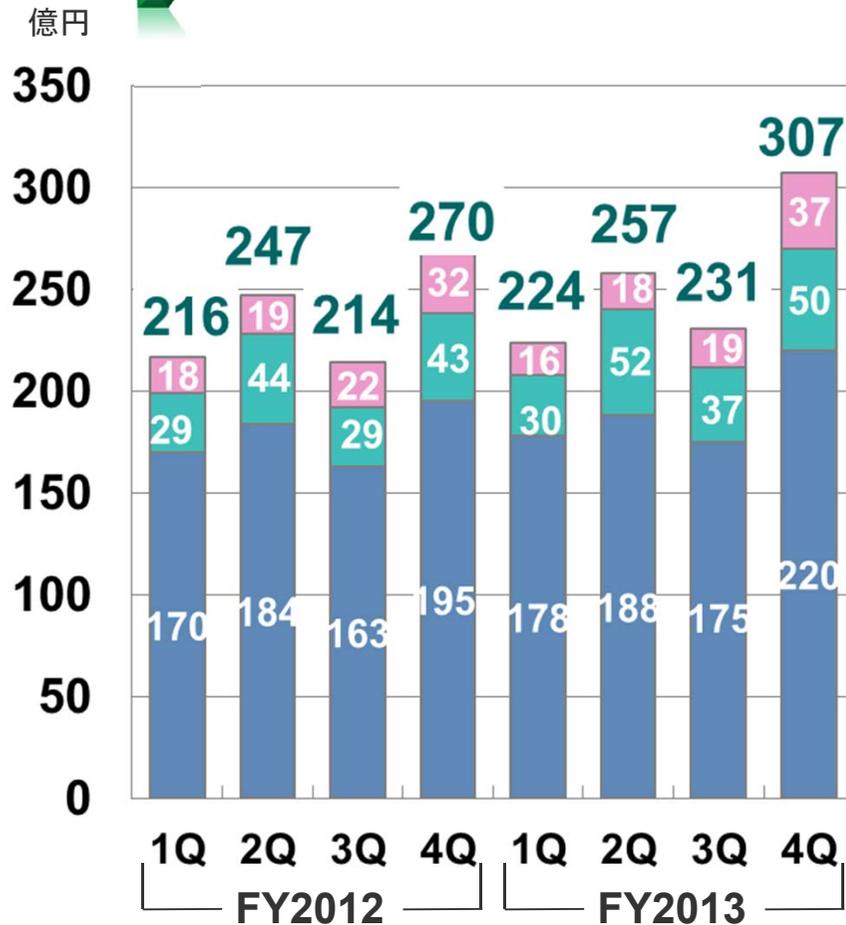
* 2 前期実績の数値はIAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しています。

(修正前数値: 営業利益 合計 158億円)

I -2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -



第4四半期の営業利益率 17.0% (計測事業 20.4%)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

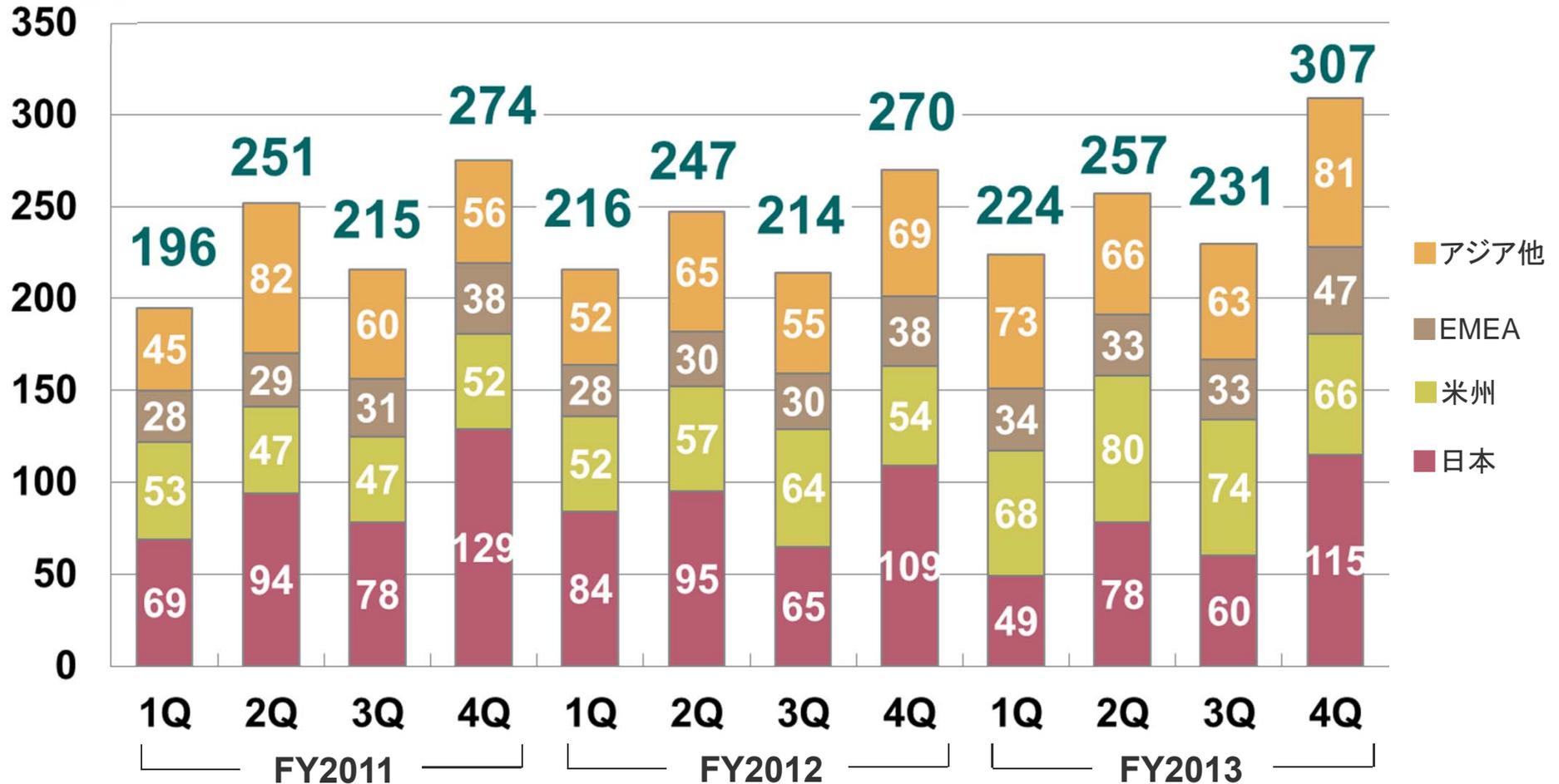
* IAS第19号の改訂に伴い、変更後の会計方針を遡及的に適用し修正しております。(修正前数値: FY2012 2Q営業利益48億円)

I -2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -



前年同四半期比、全地域で売上拡大

億円



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

I -2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 着実にキャッシュフローを創出

FY2013 (累計)

- ①営業CF: 138億円
- ②投資CF: △ 53億円
- ③財務CF: △ 44億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 85億円

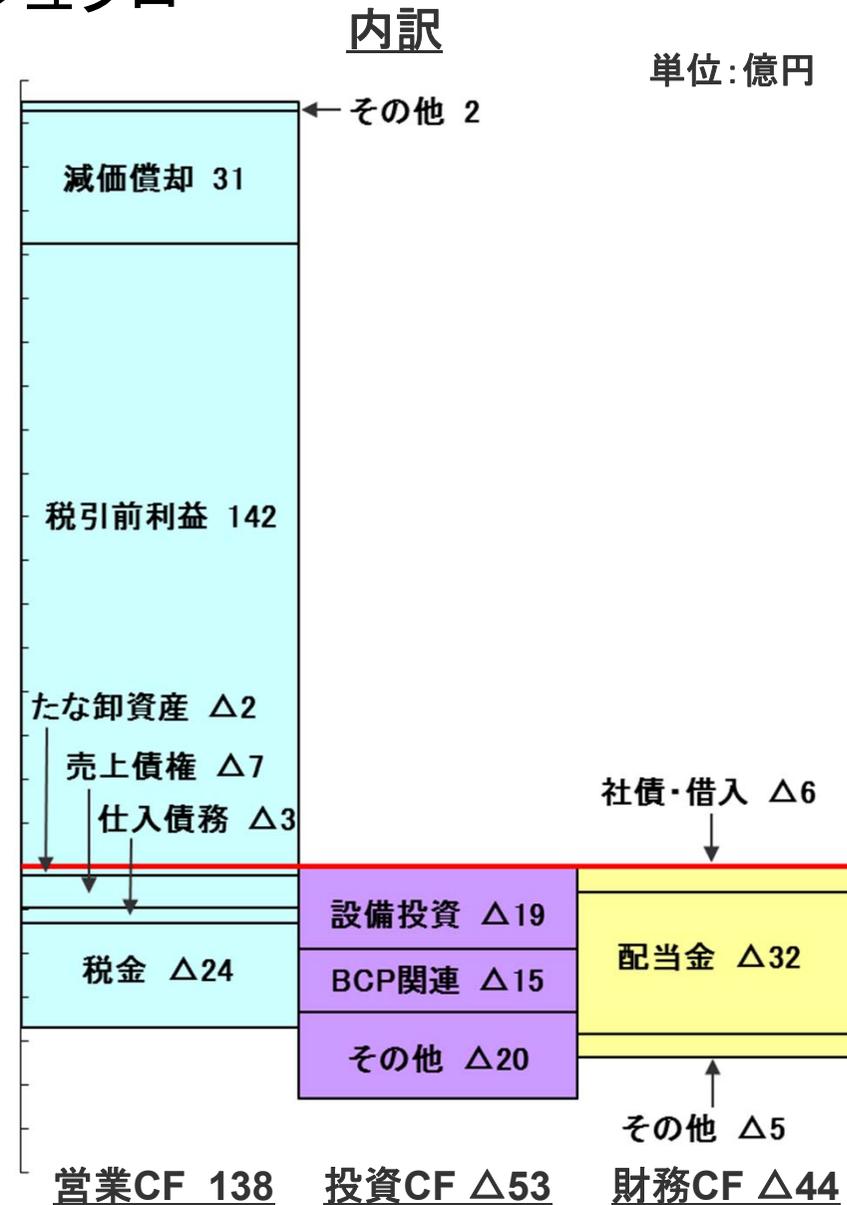
現金同等物期末残高

432億円

有利子負債高

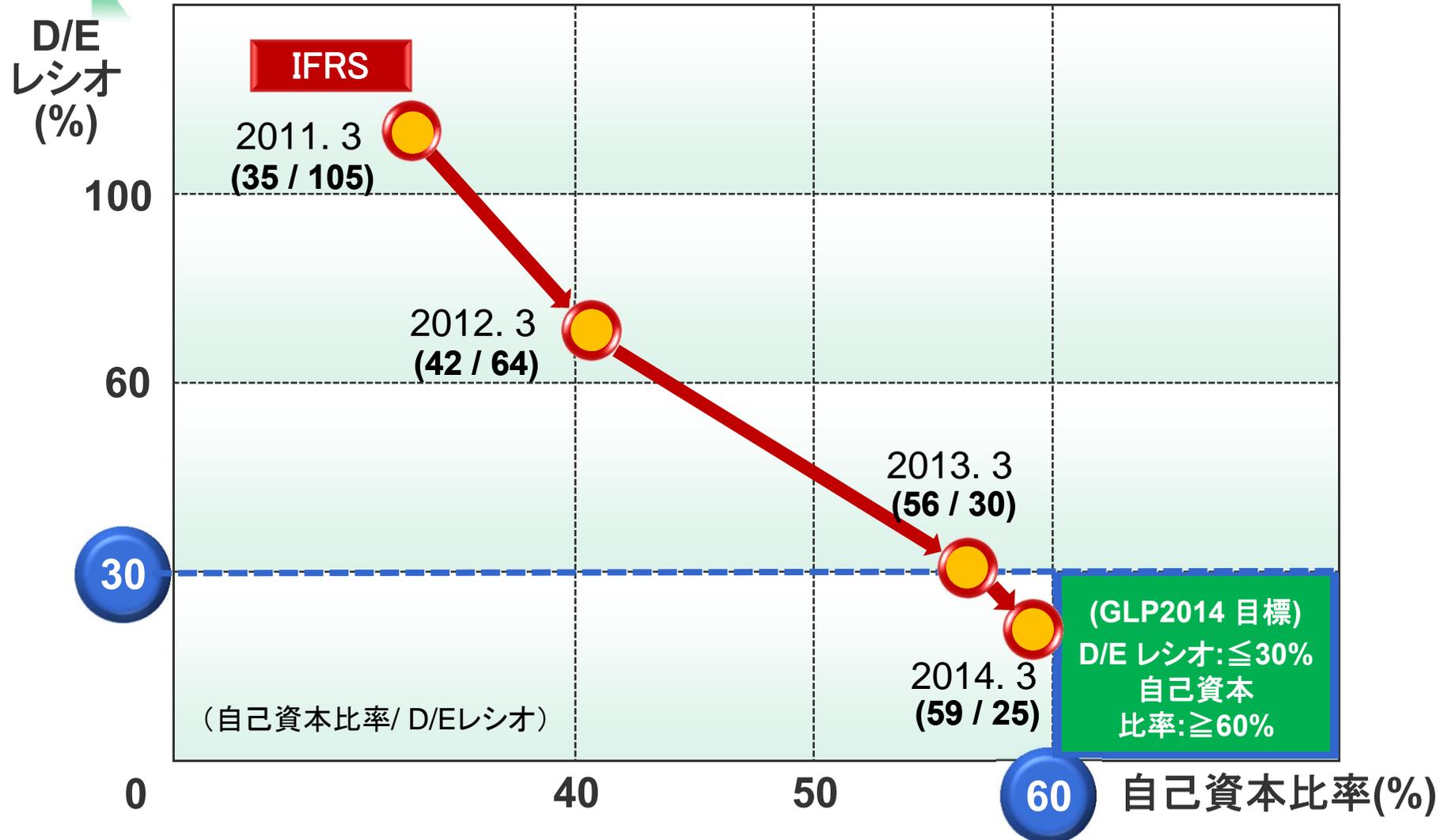
189億円

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



I -2. 連結決算概要 - 財務体質改善 -

▶ 財務体質の改善は着実に前進



Ⅱ. 2015年3月期 通期業績予想

Ⅱ-1. 2015年3月期 通期業績予想(連結)

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		2014/3期	2015/3期		
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		1,019	1,090	71	7%
営業利益		141	160	19	13%
税引前利益		142	160	18	12%
当期利益		93	110	17	18%
計測	売上高	760	815	55	7%
	営業利益	130	145	15	11%
産業機械	売上高	169	180	11	6%
	営業利益	12	13	1	8%
その他 (含：内部消去)	売上高	90	95	5	6%
	営業利益	△ 1	2	3	-

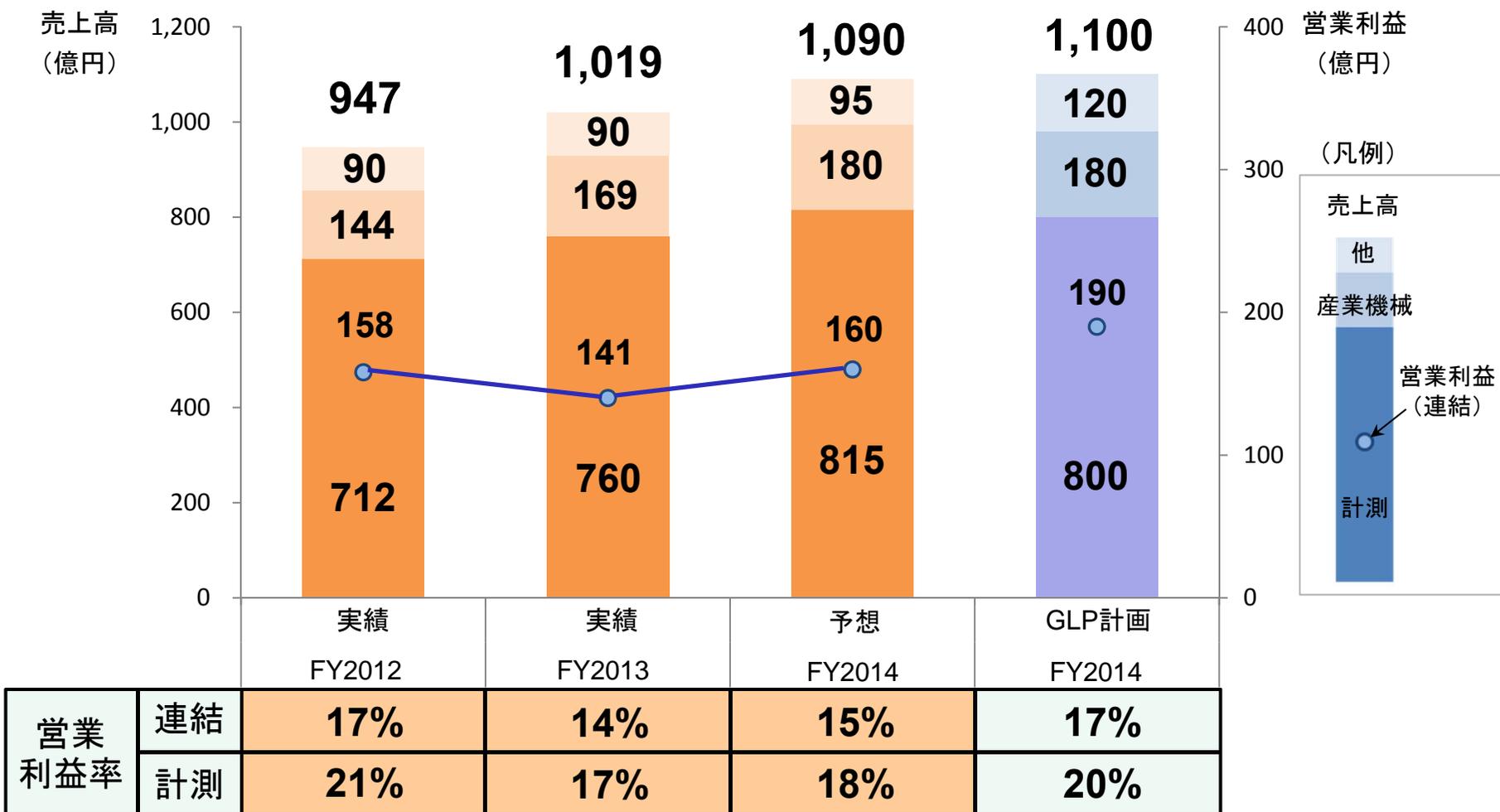
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート：1米ドル100円、1ユーロ=135円

Ⅱ-1. 2015年3月期 通期業績予想（サマリー）

3ヶ年計画 GLP2014との比較

国際会計基準(IFRS)



II -2. 事業環境と取り組み(1)

計測事業

FY2013→FY2014

売上収益 7%増

営業利益 11%増



Protocol Conformance test

事業環境

LTE-Advanced開発の更なる進展

新興端末ベンダーの成長による市場の拡大

TD-LTE市場の本格化

2015年3月期の注力ポイント

サポート体制強化による、コンFORMANCEテスト、キャリアアクセプタンステストの受注拡大

リファレンスデザインを提供するチップセットベンダーとの関係強化と端末製造ソリューションの充実

中国を中心としたグローバルなTD-LTE関連需要の取り込み

Ⅱ-2. 事業環境と取り組み(2)

産業機械事業

FY2013→FY2014

売上収益 6%増
営業利益 8%増



X線異物検出機

事業環境

日本市場の更新需要が旺盛

北米を中心とした海外市場での食品検査需要拡大

2015年3月期の注力ポイント

ソリューションの機能強化による確実な更新需要の獲得(日本市場)

X線異物検出機の競争力強化と海外市場での拡販体制

グローバルな大手食品メーカーとの関係強化、新規顧客開拓

II -3. 配当予想について

年間配当(4円増配)

24円(うち、中間配当 12円)

	年間配当	当期利益	配当性向
2015年3月期(予想)	24円	110億円	31%

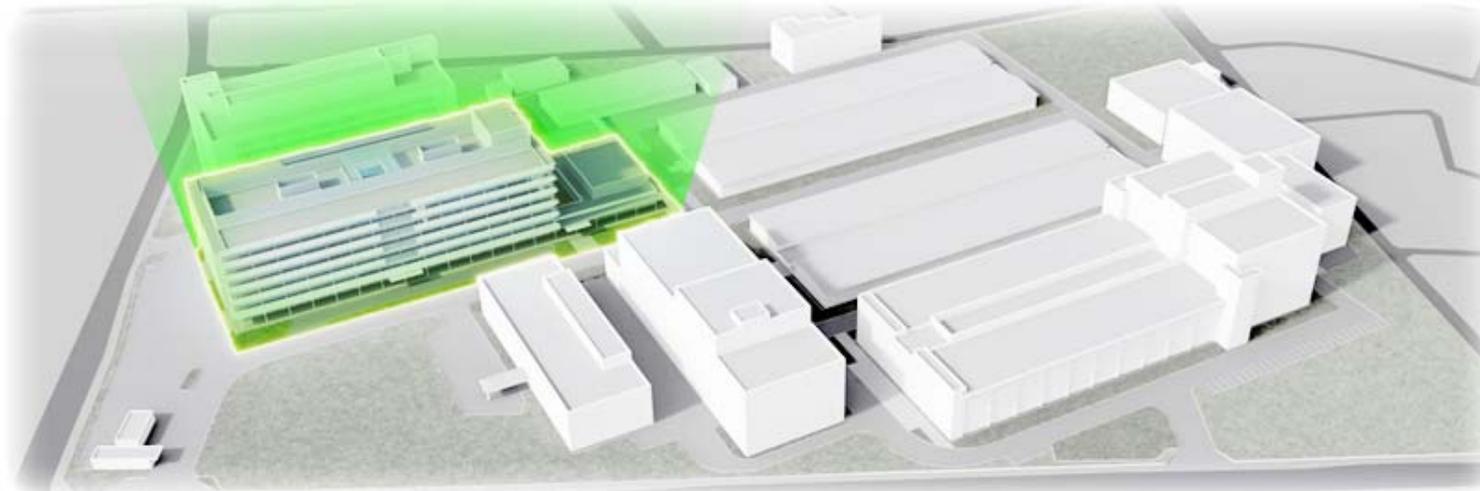
利益配分に関する基本方針

当社の株主の皆さまに対する利益還元策は、連結業績に応じた利益処分を行うことを基本方針としております。剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向25%以上を目標とします。また利益還元策として総還元性向を組み入れ自己株式の取得を検討してまいります。

Ⅲ-1. BCP(事業継続計画)推進に伴う投資計画

厚木サイトのBCP整備(総投資額:約100億円)の一環として、
本社機能・R&D機能を担う新棟「グローバル本社棟」を建設

目的	①アンリツグループ全体のBCP体制構築 ②R&D環境の充実と機能強化 ③厚木サイト開設50年経過に伴うS&B*計画の推進
新棟竣工時期	2015年4月予定
設備投資額	BCP総投資額100億円(内グローバル本社棟建物:約80億円) 2014年3月期:15億円 2016年3月期以降:55億円 2015年3月期:30億円



Ⅲ-2. 企業価値向上表彰、誠実な企業賞をダブル受賞

▶ 誠実さと企業価値向上を両輪に、経営力をさらに高めます



企業価値向上表彰
優秀賞

誠実な企業賞
優秀賞

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Anritsu
envision : ensure